"まっすぐ"が通る生駒に!

し お み

塩見まきこ

市議会 newsletter 臨時号



2023 年 1 月 18 日発行 発行責任者:塩見牧子 〒630-0213 生駒市東生駒 1-215-402 TEL:090-3057-7406 FAX:0743-74-8518 ☑ : shiomi753@yahoo.co.jp

生駒市、地域公共交通の窮状を知りながら放置!

小紫市長のサボリがたたって、住民の足に悪影響

10 か月前の昨年3月、奈良交通(株)は、大幅な赤字に陥っている右の市内5路線についてバスネットワークの再編が急務であるとして小紫市長に協議を申し入れました。

しかし、市長は、住民の通勤・通学、買物や通院等の足が奪われる恐れがあるにもかかわらず、それを半年以上放置。問題認識後も対応が遅れたことをごまかし、単なる問題の先送りをしただけで、依然としてバス路線廃止・減便の危機は去っていません。

■市への窮状の訴えは令和2年7月に 始まっていた!

奈良交通は、遅くとも令和2年7月には生駒市地域公共交通活性化協議会[※](右注参照。以下、「協議会」)で、コロナ禍と関係なく利用人数が少ないバス路線の減便を行ったと窮状を報告し、令和3年2月と4月には、コミュニティバスだけでなく鉄道や路線バス等の維持についても協議して欲しい旨を訴えています。(裏面の表をご覧ください。)

これに対して、市は令和3年9月号の広報で公共交通の利用を促す特集を組んだものの、協議会では鉄道、路線バスの維持のための協議はなされないまま、昨年3月の奈良交通からの協議申入れに至りました。

スマートフォンでR4.3.23の 奈良交通からの協議申入れ をお読み取りいただけます。







ロバス停) (生駒駅南ータウン線バス (生駒駅南れる奈良交通の生駒ニュ路線の一部廃止が心配さ

■市長の問題認識に致命的な遅れ

小紫市長は、昨年 11 月 22 日に市のホームページの市長メッセージで、9月下旬の協議会で奈良交通から路線バスの廃止・見直しの

※生駒市地域公共交通活性化議会

法律により自治体に置かれ、地域交通に関して交通事業者や地域の関係者が公共交通の改善や移動手段の確保を話しあう会議体で、市長が会長を務めています。今回のバス路線減便・廃止なども当然、協議会が扱う案件です。

説明を受けたとしています。3月23日の奈良 交通の協議の申入れから半年も経って説明を 受けているとは、随分悠長な対応です。

スマートフォンで R4.11.22 の市長メッセージをお読み 取りいただけます。





■市長は公共交通の会議をサボり続け、 イベント三昧

2年前に問題は認識できたはずなのに、路線の廃止・減便を示されるまで協議会会長の小紫市長は何をしていたのでしょうか?

裏面の表のとおり小紫市長は、令和元年度から一度も協議会に出席していません。9月に初めて問題を認識したというのは、少なくとも小紫市長の中では事実だったわけですが、市民生活に大きな影響を与える公共交通の問題を組織のトップが「知らなかった」では済まされません。

こんな大事な会議をサボって市長が向かった先は、毎週木曜日に自治会館で開催されている「いきいき百歳体操」でした。(右図参照。)市民生活の足の確保よりもイベントを優先する感覚には理解に苦しみます。

バスネットワーク再編の市内対象ルート

- ●生駒駅南口~白庭台駅~ひかりが丘
- ●生駒駅南口~あすか野センター[~]白庭台駅
- ●生駒駅北口~北田原
- ●富雄駅~学研北生駒駅~傍示~生駒北スポーツセンター
- ●高の原駅~学研登美ケ丘駅~高山サイエンスタウン

■補助金は一時しのぎにすぎない

さきの「市長メッセージ」では、昨年 12 月 議会に上程する補正予算案に公共交通事業者 に対する 8780 万円の財政支援を盛り込んで いると、いかにもこの問題に真剣に取組んで いるかのようなアピールをしていますが、こ の補正予算案は、国の新型コロナウイルス感 染症対応地方創生臨時交付金を活用して、燃 料費高騰の影響を受ける公共交通事業業者に 対して赤字路線・黒字路線関係なく補助する もので、奈良交通の赤字路線の廃止・減便問 題に対する措置ではありません。一時しのぎ にはなるかもしれませんが、経常的な補助で もなく、根本的な問題解決にはなりません。



6月30日に、俵口町自治会館で行っておられる「俵口町百歳体操」にお邪魔しました。沢山の方が来られておられ、一緒に百歳体操を行いました。その後、意見交換会を行い、色んなご意見を頂戴しました。皆さんが元気に活動が出来るようにまた、子ども達が住みやすい生駒市になるよう頑張ってまいります。



図:生駒市秘書課のツイッターの投稿

塩見牧子(しおみまきこ): 1965 年 3 月 8 日大阪生まれ。1972 年に生駒に移り住む。生駒東小学校、緑ヶ丘中学校、京都女子高等学校、同大学卒業。同大学大学院文学研究科修了。会社員、学校図書館司書、中・高非常勤講師を経て 2007 年 4 月、生駒市議会議員に初当選。①将来世代に元気なまちのバトンを渡す、②誰もが生きづらさを感じることなく暮らせる共生社会をつくる、③フェアで市民本位の市政運営を築くための取組みやしくみづくりの提案を活動公約としています。

◆生駒市地域公共交通活性化協議会で出されていた路線バス経営の窮状

年度	回数	日付	時間	場所	出席	意見
	第1回	R1.6.27(木)	15:00~	大会議室	山本副市長	
R1	第2回	R1.9.25(水)	17:00 15:00~ 17:10	大会議室	杉浦部長	○委員から、通勤客がだんだん減ってきて、通勤客でなくて、バス利用者を減らさないために形成計画をつくる。人の流れを作らないとだんだん減っていく。それをどう防ぐか。着地の施策を含めて考えていかないと。との発言に対して、議長から、活動機会を確保するためには移動シームレスが出来ないとだめで、… (中略) …自治体としてもやるべきで、公共交通や移動だけでなく、公共施設や買い物施設をセットで考えることも念頭に検討を進めたい。との発言があった。○委員から、利用者が減ってくるのでいろいろ対策はあると思うが、目の前に見えていないので、交通事業者の方々に出してもらって方法を探っていくのも一つの方法だと思う。との発言に対して、議長から、… (中略) …それぞれの事業者でも模索し、困っていることもあると思う。それを乗り越えるために地域として協力していくのも一つの方法と思う。との発言があった。○委員から、バス乗車人数は全国的に右肩下がりとなっている。使い勝手が悪いかも知れないが地域の路線バスに乗っていただきたい。との発言に対して、議長から、ここまで乗ってもらわないとバス路線が維持できないことをアピールするためバス車内で乗車数をお知らせしているところもある。との発言があった。○委員から、バス路線を守ろうということは事業者から言いづらいので、バス路線を維持する運動をするにしても、このような場でもっと発言してもらったら大きく役に立つと思う。との発言があった。
	第3回	R2.1.8(水)	15:00~ 17:10 15:00~	コミセン 402・403	山本副市長	奈良交通が、コロナ以前から厳しい経営状況にあることを訴え、運
	第4回	R2.3.10(火)	17:10	大会議室	山本副市長	行の見直しを示唆。
R2	第1回	R2.6.19(金)			書面開催	
	第2回	R2. 7. 14(火)	15:00~ 17:00	大会議室	山本副市長	○委員から、路線バスの状況について、緊急事態宣言中は6割減、6月以降は学校の再開等もあり2~3割減。対策としては、抗菌・抗ウイルス対策の検討をしている。この状況が続くと、今年度は非常に厳しい決算になる見通しである。6月1日にダイヤを見直し、生駒地区でも大幅な減便をしたところがある。この減便はコロナによる対応ではなく、以前から人口が減少しているところ、利用が少なかった路線であり、本来は数年かけて見直しをする予定だったが、体力が保たないということもあり減便に踏み切ったところである。今後も需要状況を見ながら見直しが必要なところは随時対応する予定。との発言があった。 ○委員から、現在でも通勤客が減ってきて、コロナ禍により更に利用者の減少が定着すると、路線バスの減便も定着してしまう。市民が生駒に来ようと思うと、路線バスではなく、近鉄で奈良市を通らないといけない。生駒市としては、奈良市を通らなくても路線バスで直接生駒市に来ることができるような考え方を確立する必要がある。利用者の減少を前提とすると負のスパイラルに陥るので、需要を誘導していく必要がある。との発言があった。
	第3回	R2.9.30(水)	14:00~ 17:00	大会議室	山本副市長	鉄道や路線バスなども令和 3 年
	第4回	R2.10.30(金)	10:00~ 12:00	401 • 402	山本副市長	度の協議会での検討時事項にするよう要望。(1回目)
	第5回	R2.11.25(水)	14:00~ 16:30	大会議室	山本副市長	755 7 <u>2</u> ±° (1 HI)
	第6回	R3. 2. 12(金)	14:00~ 17:00	大会議室	山本副市長	○委員から、資料 5-1 P78 (生駒市地域公共交通総合連携計画(案))について、 <mark>幹線交通や支線交通の鉄道や路線バスも市民が乗らないと路線を維持できないため、コミュニティバスだけでなく、鉄道や路線バスの維持についても次年度以降の協議会で検討してほしい。</mark> との発言に対して、議長から、安全確保など住民・自治体・市がサポートできるところは、地域の総力をあげて対応していくことが重要である。との発言があった。
R3	第1回	R3. 4. 22(木)	10:00~ 11:30	特別会議室	山本副市長	○委員から、既存の鉄道・バス・タクシー事業者は厳しい状況であり、このままでは現状のサービスレベルを維持することが難しい。資料 5-1 (令和3年度生駒市地域公共交通活性化協議会の検討内容及びスケジュール(案))、5-2 (令和3年度生駒市地域公共交通活性化協議会の検討内容)の「4.地元企業等との協働や連携の推進に向けた検討」では生駒市コミュニティバスが中心であるが、既存の鉄道・バス・タクシーも含めて協力や連携について検討してほしい。との発言があった。
	第2回	R3.6.25(金)	10-00		書面開催	鉄道や路線バスなども協議会での検討
	第3回	R3.9.15(水)	10:00~ 12:00	特別会議室	山本副市長	事項にするよう要望(2回目)する
	第4回	R3.12.15(水)	10:00~ 12:00	大会議室	山本副市長	も、令和3年度中は議題にせず。
	第5回	R4.3.11(金)			書面開催	
	第1回	R3.6.30(水)	10:00~ 12:00	大会議室	山本副市長	生駒市長宛て令和4年3月23日付け奈交乗事第248号 貴市内バスネットワーク維持に向けた 協議申し入れについて(依頼)による説明。協議は特になく議論は次回へ先送り。
R4	第2回	R4.9.27(火)	14:00~ 16:00	大会議室	小紫市長	○会長から、 奈良交通の経営が厳しいことも理解できる し、路線バス維持を求める住民の意見も理解できるので、両者の理解が得られる結論を探る必要がある。また、協議会参加者や地元役員と異なり、再編案をアンケートで周知された住民から再編案に対する意見が生じる可能性があるため、その場合は <mark>奈良交通が主体となって丁寧に対応していただきたい。</mark> との発言があった。

■市長の認識は「公共交通を考えるいい機会」!?

昨年 12 月 15 日に開催された協議会の冒頭、小紫市長は「(今回の問題は)公共交通を考えるいい機会」と挨拶しましたが、この協議会こそ持続的な地域公共交通のありかたを考える場であったはずです。

また、翌日 16 日の市長メッセージには、

奈良交通との調整の結果、「当面の間」、現行ネットワークを継続することになったが、「時間をかけて」協議する、しかし「先延ばしではなく」、これから事業者、行政、市民の三位一体でバスの利用促進に取り組むとありますが、どのようなタイムスパンでどのような状態に持っていこうとしているのか、読んでもわかりません。

補正予算の補助金で時間稼ぎをしてごまか

していますが、たしかに言えることは、協議は、奈良交通が窮状を訴え始めた 2 年半前にスタートしていなければならなかったということです。事態を深刻化させた張本人はおサボリ市長です。

スマートフォンで R4.12.16 の市長メッセージをお読み 取りいただけます。



